

第 59 回日豪経済合同委員会会議開会式における岸田総理大臣祝辞

グレイ委員長、
三村委員長、
御列席の皆様、

第 59 回日豪経済合同委員会会議が、3 年ぶりに日本で対面にて開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

まず、安倍元総理の逝去に当たり、オーストラリア各界からの弔意メッセージや各地でのライトアップなど、皆様から頂いた特別な御配慮に改めて感謝申し上げます。また、先日の国葬儀に、アルバニー首相と 3 名の元首相に参列いただいたことも、日豪の特別な絆を示すものでした。安倍元総理は日豪関係を「特別な戦略的パートナーシップ」に引き上げた立役者であり、そのレガシーは多岐にわたります。経済面では、日豪 E P A の署名や C P T P P の実現により、日豪両国のビジネス機会の創出に貢献されました。私は、安倍元総理の遺志を継ぎ、アルバニー首相と手を携えて、日豪関係の更なる発展に尽力していきます。

私は、先月、ニューヨーク証券取引所でスピーチをする機会に恵まれました。その中で、未来への投資を進め、次々と新たな価値が創造される日本経済を作り上げるための優先課題の一つとして、「G X（グリーン・トランスフォーメーション）への投資」を掲げました。2050 年までのゼロエミッション化を達成するため、日豪両国が連携できる余地は非常に大きいと感じています。

正に二国間経済協力の新たなフロンティアとして第一に挙げられるのは、水素・アンモニアを始めとする脱炭素分野です。日豪両国は、この分野での二国間協力を推進していくのみならず、東南アジアや太平洋島嶼国におけるエネルギー・トランジションを支援するため、大規模プロジェクトや域内共通標準作りに共に取り組んでいけるでしょう。同時に、石炭や L N G を含む、豪州から日本への資源・エネルギーの安定的供給は、引き続き重要な日豪経済関係の土台です。オーストラリアの伝統的な資源・エネルギー産業の発展に日本の投資や技術が貢献してきたように、脱炭素分野でも日豪のパートナーシップが続いていくことを確信しています。

インド太平洋地域の戦略環境が厳しさを増す中で、我々は、ロシアによるウクライナ侵略、エネルギーや食料市場の逼迫、世界的な物価高など、様々な困難な課題に直面しています。これに伴い、経済を戦略的視点から捉えて対応する必要性もますます高まっています。日豪両国は、地域の同志国の中核として、経済安保の分野においても重要なパートナーです。日米豪印における取組を含め、経済的威圧への対応やサプライチェーン強靱化などに向けた同志国連携を進めていきます。

最後になりますが、今日の強固な日豪関係は、ビジネス界の皆様が長年にわたって築き上げてこられた信頼関係によって成り立っています。日豪双方の経済委員会の皆様によるこれまでの御尽力に改めて感謝申し上げますとともに、引き続き御協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

今回の会議が実り多いものとなることを心から祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

(了)